

■来賓挨拶：国土交通省大臣官房審議官 松原 裕

皆様、こんにちは。国土交通省で海部門、港、海運、さらには造船、船乗りの皆さん、船員の育成といったことを担当している審議官の松原でございます。本日は、北は北海道からご当地九州の各関係自治体の方々、また国には地方整備局というのがありますが、そちらからも参加をいただいて、このタイトルには書いてありませんが、日本海の交流海道ネットワークという、年に一度の各地持ち回りで開催している一環の中心イベントとして、本日ここ唐津で会合が持たれたわけでございます。

本日は唐津の市民の方々も大勢ご参加だと伺っております。あまり全国的には知られていないのかもしれませんが、実は唐津には海上技術学校がありまして、かつては日本の外航商船を中心になって支え、現在なおかつ国内の海運、内航海運をしっかりと支える海運の船員さんを育成する学校がこの近くにございます。ご存じのとおりだと思います。そういった唐津の地でこの会合が持たれるということでございまして、ほんとうにありがたく思っております。

今日はクルーズの話が中心になろうかと思っておりますので、その観点で今の国の状況をご報告いたします。

世界から日本を訪れている海外のお客さんは、どのぐらいの数かご存じでしょうか。実は、ずっと長いこと1,000万人を目指し続けていたんです。ようやく去年、海外から日本に来る外国人、会議など仕事で来る人もいますが、観光で来る人も含めて1,000万人を突破したんです。そして、今年その勢いはとまらず、8月時点で1,000万人を超えて、政府としては何年か先には2,000万人だと言っているわけですが、今年この勢いでいくと、1,000万も後半ぐらいにいくのではないかという勢いで、海外のお客さんがどんどん日本を訪れておられます。

その中心の多くは飛行機なんですけれども、実は船で日本を訪れる中心はここ九州なんです。福岡を中心に海外のお客さんが、特に韓国、中国から来ているわけです。ジェットフォイルとかフェリーとか通常行き来している定期航路のほかに、船を仕立てて海外からお客さんを招く、まさに観光クルーズ、リゾートのための船というのがあります。

そういった船も着けるような港を、この唐津で作り上げていこうではないかということで、九州地方整備局が今、一生懸命やっております。先ほど市長、あるいは県のほうからのご案内がありましたように、28年度、今から1年ちょっと先にはその港がこの唐

津にでき上がるということでございます。その暁には、今日来られている商船三井客船の船が間もなく到着だそうですけれども、毎年数回ぐらい寄ってもらえるような港になるのではないかという、誘致活動の意味も込めて、唐津市のほうでお招きしているんだと思います。

そして、クルーズで来てもらっている人たちに日本の食を楽しんでもらう、あるいは日本の料理に合わせてお酒も楽しんでもらうということで、田崎先生にもお声をかけて、快く引き受けていただいたのではないかと考えております。そういう船で来るお客さんを100万人にしていこうではないかというのが、今の政府の戦略になっています。飛行機合わせて2,000万人、船だけで100万人ということで、クルーズ100万人時代を目指して、国土交通省、政府を挙げて一生懸命取り組んでいるところでございます。そんな中、ここ唐津でこういうふうに市民の方々と一緒になってお話を聞けるのを楽しみにしてまいりました。どうぞひとつよろしく願いいたします。ありがとうございました。

